家族会ほっとライン

家族を思う
の気持ちが
日本を支えます

超高齢化社会への備え シニアの鉄人 第62回

「人生の醍醐味とは、長寿命時代をどう生きるか」

万年筆工房FURUTA（個人事業主）　古田　清悟（ふるた　せいご）

令和2年3月、陸士教導団長の職を最後に自衛隊を退官し、同年8月、豊和工業東京事務所顧問として再就職しました。

また、退官と同時に個人で起業し万年筆工房FURUTAを立ち上げ、東京都葛飾区堀切に工房を開き、これまで10年来ご指導いただいた万年筆職人久保幸平氏（御年94才）に弟子入りし、現在職人としての人生を死に物狂いで楽しく過ごしています。

自衛隊での経験

自分（知識、技能）を鍛えて組織に貢献したいという気持ちを常に持って勤務しさまざまな経験をしましたが、強く想いが残っているのは戦時下の米国に留学した際の経験です。今日がほぼ自分の限界、このままでは明日ドロップアウトするかもしれない、明日生き残るにはどうすればいいか、不安を押し殺し打開策を考えイメージトレーニングを繰り返して眠りにつき、翌日実際に体と頭をフル稼働させて試行錯誤しつつ改善を図るという日々を送りました。

テロとの戦いに勝利し戦死戦傷者を局限するための厳しい訓練に脱落者が続出するなか、何とか最後までやり遂げることができましたが、帰国後しばらくして留学生を含むチームメートの数人が戦死したとの連絡を受けました。

これほどまでの訓練を乗り越えた者にしか困難な任務に従事することができず、生還できないこともあるという厳しい現実を思い知らされましたが、同時に厳しい状況に身を置き自分を磨くことで自分の中にあるものを掘り起こし延ばすことで進化し、周囲に貢献できるという充実感を味わうことができました。

この頃から今後の人生をどう生きるべきかよく考えるようになりました。

私の人生観

いろいろな経験を経て「いつ何が起きるかわからない、自分も周囲の人も明日生きているとは限らない、いつ終わるかわからないからこそ、今日どう過ごすか、何をするかは人生そのものの「という人生観を持つようになりました。

人生の醍醐味とは

自分の中にある可能性を掘り起こし、やりたいことをやりつつ学び考え行動することで自分の可能性を広げ、周囲に喜びを与えて充実感を感じることができればこれこそ人生の醍醐味だと思います。

何をしたいのか
↓趣味で自分観察

何をしたいのか自分と向き合い、感性が何に反応するのか自分を観察するため、職務の延長としてマラソン（フル～ウルトラ）、トレイルラン、トライアスロン、スクーバダイビング、スカイダイビング、各種格闘技、純粋な趣味として三線、サックス、蕎麦打ち、寿司、レザークラフト、ペン（万年筆・ボールペン）ターニング、蒔絵その他多種多様な趣味にチャレンジしました。

短期間で何かを身につけるインストラクターのようなものにも魅力を感じましたが、時の過ぎるのも忘れ没頭できるものとして手先を動かして物を作る職人が自分に向いているのではと感じるようになり、趣味の延長で万年筆の作成にのめり込み、伝説の職人久保幸平氏と巡り合い指導をいただくことになりました。

平均寿命、健康寿命の延び
↓長寿命時代をどう生きるか

長寿命時代において自衛官が退官する50代は中間点に過ぎず、健康であれば退官後の人生はかなり長くなります。これまでは、再就職して65歳で退職し年金生活を送るのが一般的でしたが、長寿命時代では働き方も多様化し、65歳以降をどう生きるかが大きな課題となりました。

漫然とした日々を過ごしてしまうと知識や経験はやがて陳腐化し自己のポテンシャルは低下の一途をたどりますが、自分に投資して時間をかけて努力を積み上げて進化しポテンシャルを増大させることで長寿命時代を充実させたいと思うようになりました。

退官後どう生きるか、退官直後は力を蓄う絶好の機会

現役時はいろいろと制約がありましたが、その後の人生では制約もほぼなくなりやろうと思えば自分のやりたいことをすることができます。また、体力・気力がまだまだ充実しているこの時期は長寿命時代を自力で生き抜く力を身に着ける絶好の機会であり最大限に活用しようと考え、第2の人生（会社顧問）を送りつつ第3の人生をスタートさせることを決意し久保師匠のもとに半ば押し掛ける形で弟子入りして万年筆職人として修業を開始しました。

第2の人生　会社顧問として

会社に甘えず依存せずと自分に言い聞かせ、現場を重視し社員とともに汗を流し苦しみ考え学び行動して知見を蓄積することでポテンシャルを上げて社に貢献しようと日々努力しています。会社の状況を踏まえ、万年筆職人とのバランスをうまく取りつつ、出勤した分の対価を給料としていただいています。異質な職業に同時に従事するとそれぞれに新鮮さを感じ相乗効果があるようです。20式新小銃の量産が始まりモノづくりという点では共通しており、大変さ厳しさをしみじみと味わっています。

「筆者紹介」
古田　清悟
・防大29期
・元陸士教導団長（元陸将補）

札幌（北海道）
ミサイルなどの飛来に対する避難訓練に参加
身を守る行動を習得するため

札幌自衛隊家族会は8月4日、札幌市内中心部で行われたミサイルなどの飛来に関する避難訓練に、隊友会の皆さんと共に参加しました。

この訓練は、頻繁に北朝鮮から発射されるミサイルから身を守る手段を習得するためのもので、市民の安全を確保し、万一の状況でも犠牲者を出さないために計画されました。

札幌自衛隊家族会は、札幌市に在籍する団体として協力の依頼を受け、参加しました。

訓練は、ミサイルが飛来する可能性が高いと仮定し、Jアラートからのメール指示に従い、遮蔽物のない場所では低姿勢で身を守り、堅牢な施設がある場所では施設内で頭部を守りながら低姿勢で状況を見守る訓練でした。

避難訓練に参加した家族会会員

今回の訓練では外国人観光者も想定し、領事館の方も参加しました。通信会社の協力を得て、携帯電話からJアラートの発信音と飛来物の方向、状況、および身を守る行動を促すメールが通知される本番さながらの形で訓練が行われました。

参加者は受信した情報に基づき、爆風から身を守る体勢をとり、地下施設などに避難しました。

その後、飛来物の危険が無くなったことを確認する安全確認のメールを受信し、避難訓練を終了しました。

訓練後、参加者全員が札幌市役所の会議室で、今回の訓練の結果についての講評や今後の訓練の方針、Jアラートが発令された際の問題点などについて意見交換が行われました。

（札幌自衛隊家族会　会長　森本　隆志）

中弘南黒（青森県）
関係部外団体と連携した家族支援訓練
弘前駐屯地にて、隊友会とともに

安否確認訓練風景

青森県自衛隊家族会中弘南黒協議会（工藤冬一会長）は8月27日、陸上自衛隊弘前駐屯地において、青森県隊友会と連携して「令和5年度関係部外団体と連携した家族支援訓練」を実施しました。

今回の訓練は「大規模災害等発生時に部隊が実施する家族支援の充実を図るため、家族支援施策について自衛隊家族会・隊友会との連携および家族支援態勢を強化して、隊員が後顧の憂いなく任務にまい進可能な態勢の基礎を確立する」ことを目的として実施しました。

訓練は、視察官である弘前駐屯地司令兼ねて第39普通科連隊長董沼文洋1等陸佐および担任官である弘前駐屯地業務隊長吉野宗治2等陸佐のあいさつ、訓練全般の説明に引き続き、情報伝達・安否確認訓練について展示・説明が実施されました。展示・説明では、家族会・隊友会の連携要領についてイメージアップを図るため、各会長・支部長の顔写真が入った要図を使用して行われました。

説明終了後、駐屯地内において、家族会・隊友会のそれぞれの会員が実施した安否確認要領について相互に研修し意見を交換しました。

また、安否確認システム「あんぴくん」について、使用要領などについて説明が実施されました。訓練終了後は、駐屯地隊員食堂において意見交換会が行われ、家族会・隊友会の関係強化を図りました。

（青森県自衛隊家族会　会長　野呂　和生）

入間（埼玉県）
入間市・鶴ヶ島市・吉川市で合同見学会
酷暑下でも空調で快適に見学

残暑いまだ厳しい9月5日、入間市自衛隊家族会は、同じ埼玉県下の鶴ヶ島市と吉川市の自衛隊家族会と合同で入間基地見学会を開催しました。

埼玉県下には約40の地区会がありますが、活動にはばらつきがあり、自衛隊の部隊見学の機会が未だにない会員がたくさんいます。呼びかけたところ計28人が参加しての盛況な見学会となりました。

新型輸送機C－2の見学では部隊側のご配慮で外部電源から空調が入れてもらえて、酷暑下でも快適な環境での見学でした。

C－2輸送機の広い機体内部で

（入間市自衛隊家族会　事務局長　小澤　和仁）

大和（神奈川県）
自衛隊協力三団体の納涼親睦会を開催
終始和やか、かつ盛大な懇親会

神奈川県自衛隊家族会大和地区会は8月5日、厚木アーパンホテルで開催された自衛隊協力三団体納涼懇親会に参加しました。

この懇親会は「あつぎ鮎まつり」に時期を合わせ、自衛隊協力三団体（隊友会、募集相談員会、家族会）が、日頃より多大なご協力をいただいている自衛隊厚木募集案内所広報官の皆さんに感謝の気持ちを込めて開催されているもので、コロナ禍のため、4年ぶりとなる開催となりました。

当日は、厚木市長をはじめ、部内外多数の来賓が臨席されるとともに、大和地区会からも17人（家族会会員で結成されたバンド：親パードを含む）が参加し、終始和やか、かつ盛大な懇親会でした。

特に親パードは、本懇親会ではおなじみの存在で、4年ぶりとなる当日も、開演入場時のウエルカム演奏から始まり、余興として5曲、アンコール1曲を見事な演奏で場内を沸かせました。

親パードの演奏と謎のフラダンサー

私は親パードの演奏を楽しみつつも厚木募集案内所の広報官の皆さんへのごあいさつと募集に関するお話をうかがいましたが、やはり、コロナ禍と少子化の波は募集に大きく影響を及ぼしているとのことでした。

あっという間の楽しい時間を過ごし、懇親会会場を出ると、厚木鮎まつりに訪れた親子連れ、若者など多くの人々で溢れかえり、コロナ禍の終わりを告げる様子がうかがえました。

この溢れる人出を見る限り、少子化などとても実感することはできませんが、先の広報官の皆さんのいわれる通り、コロナ禍は終わっても少子化は着実に進み、厳しい募集活動が今後も続いていくと思われます。

私も息子を自衛官に持つ家族会の一員として、今後もさらに募集活動に協力していきたいと改めて思いました。

厚木募集案内所広報官の皆さん頑張ってください！

（神奈川県自衛隊家族会大和地区会理事　水谷　由美）

大分
広報入港艦艇の出迎え
数年振りの潜水艦の入港を歓迎

大分県自衛隊家族会（廣崎千都志会長）は9月1日および8日、別府地区隊友会および別府市自衛艦入港歓迎協議会と共に、別府国際観光港で実施された艦艇広報のために入港する潜水艦および護衛艦「さざなみ」の入港歓迎式を行いました。

その際、家族会は県出身乗員を激励しました。

また、艦内を特別広報していただき護衛艦の知識を深めることができ、今後の家族会活動の糧とすることができました。

潜水艦広報は久々で、来場者は、特に女性乗員の姿には関心を持たれていました。土曜・日曜の2日間の一般公開で、南極の氷展示、制服試着の写真撮影など趣向をこらした広報により、家族会員をはじめ多くの募集対象者を含む一般来場者が潜水艦および護衛艦「さざなみ」の入港を楽しむことができました。

数年ぶりの潜水艦の入港を歓迎

（大分県自衛隊家族会　事務局長　大城　仲吉）

防府（山口県）
JR防府駅において見送り
健闘を祈りつつ、嬉しさと活力を貰う

卒業生を見送る家族会会員

自衛隊家族会防府支部は、前途洋々たる第27期自衛官候補生440人を7月14日に、第20期一般曹候補生616人を7月25日に、JR防府駅において計4便の見送りを実施しました。

入校する学生や部隊配属される学生たちは、別れを惜しみ、再会を願い、互いを励ましあって、出発しました。

「ありがとうございます」「頑張ります」の言葉が飛び交い、健闘を祈りつつ、嬉しさと活力をもらい、楽しい見送りとなりました。

（山口県自衛隊家族会　防府支部　支部長　福岡　要）

福知山（京都府）
35km夜間徒歩訓練を激励
完全踏破をスーパームーンと共に願う

福知山自衛隊家族会（衣川美爾会長）は、8月31日から9月1日にかけて行われた第7普通科連隊（連隊長・前野直樹1佐）の「新隊員特技課程35km夜間徒歩行進訓練」を京都地本福知山地域事務所などと共に激励しました。

地元、第7普通科連隊の隊員となる若人への激励に府議会議員・市議会議員の2人も駆けつけていただき、家族会会員16人と京都地方協力本部福知山地域事務所などの総勢25人が、大休止地点の三段池公園第10駐車場に午後9時30分に集合。

新隊員に旗を振り声援

配食用のテントおよびテーブルの設置や即席麺の湯沸かしなどを行いました。

午後11時過ぎに到着した新隊員72人を全員で出迎え、労いの言葉で激励を行いました。その後、新隊員一人一人に即席麺を渡すと「ありがとうございます」と大きな声と満面の笑みで受け取っていました。

会員16人の中に、今春入隊したご家族も激励に訪れ「わが子の元気な姿・頑張っている姿を見て目頭が熱くなりました」と話されていました。

大休止を終え歩き出す新隊員に旗を振り「最後まで頑張れ！」「自分に負けるな！」などと声援を送り、35km夜間行進の無事と完全踏破を願って隊員を見送ると、夜空にはスーパームーンが輝いていました。

（福知山自衛隊家族会　副会長　浅居　久一）

三浦半島（神奈川県）
海自横須賀教育隊で修業式
678人が「帽振れ」にて各地の部隊へ

8月24日、海上自衛隊横須賀教育隊（武山）にて修業式が行われ、神奈川県自衛隊家族会（中條祐介会長）を代表し、地元三浦半島地区会の西村地区会長と杉田副会長が参列しました。

神奈川県下の一部地域では突然の雷雨に見舞われる不安定な空模様でしたが、武山の地はこの日を祝うかのような晴れ間に恵まれました。

式典会場には全国各地からご家族や来賓が駆け付け、修業生の皆さんの晴れの舞台を祝福しました。

横須賀教育隊司令（大賀康弘1等海佐）により、第19期一般海曹候補生課程492人、第381期練習員課程121人、第69期練習員（女性）課程65人にそれぞれの過程を修了したことが申し渡され「海上自衛官の職場は海が基本である。諸君には海を知り、自身の職場の偉大さを肌で感じ、誇りを持ち続けてもらいたい」と激励されました。

式典終了後、道路を挟んだ両側に整列した見送り者の前を、教育期間中の数々の競技会などで獲得した優勝旗やトロフィーを胸に掲げ、そして個人競技で獲得した数々のメダルを首に掛けた修業生たちが分隊旗を先頭に行進。最後の「帽振れ」にて各地の部隊へ赴任して行きました。

式典に出席し、修業生のみなさんの成長ぶりや、酷暑の中で式典を実施するための工夫や細かな配慮を間近に拝見し、教育隊がこれまで培って来た伝統の重みや充実した教育システムのすばらしさを体感することができたことは、参列されたご家族にとっても大きな収穫だったのではないでしょうか。これから自衛隊へ進もうと考えている方々へも自信をもってお勧めできると強く思いました。

優勝旗やトロフィーを前にして行進

本日修業された合わせて678人の修業生の皆さんのご活躍とご健勝を願いご報告とさせていただきます。

（神奈川県自衛隊家族会　三浦半島地区会　副会長　杉田　慎治）

泉南（大阪府）
泉佐野市役所に新たな懸垂幕
自衛官募集の一助になればと

大阪府自衛隊家族会泉南地区会は、新たに懸垂幕を泉南地区会で作成し、9月15日泉佐野市役所に寄贈し市役所庁舎に掲揚していただきました。

庁舎に掲揚された懸垂幕

また、同日泉佐野市長・千代松大耕様より泉南地区会へ感謝状を賜りました。

感謝状授与式後、大阪地方協力本部阪南地区隊長（沢村2等海佐）、岸和田募集事務所原田所長、泉佐野担当広報官、家族会泉南地区会役員の見守る中で、泉佐野市職員の方々に泉佐野市庁舎に懸垂幕の掲揚をしていただきました。

このことにより、庁舎を訪れる市民の皆さんの目に触れ微々たる協力につながると思いを馳せました。泉佐野市のご協力に自衛官の家族として感謝の気持ちがいっぱいです。

（大阪府自衛隊家族会　泉南地区会　会長　村地　幸雄）

ひとりで悩まずご相談下さい！

自衛隊家族会は
★決して会員をひとりにはしません！
★いつもそばにおります！
★解決に向けてみんなで汗をかきます！

まず、近くの会員へ。お気軽に「問い合わせ窓口」へ。

1　「問い合わせ窓口」への問い合わせ先・要領

自衛隊家族会事務局（担当）　高橋　隆志（たかはし　たかし）
◇電　話：03－5227－2468　（平日 09:00～17:00）
◇メール：jkazokukai@jkazokukai.or.jp　（　同上　）

「総括相談員」　宮下　寿広（みやした　としひろ）
◇番　号：080－4630－8987　（全日 09:00～20:00）

○ 問い合わせ者は、まず「氏名（匿名可）」「所属家族会（部隊等）」など述べた後に、必要な「問い合わせ」を実施して下さい。不在時には「相談員」から電話しますので、事前に「非通知設定」の解除をお願いします。
○ 下記の「相談員」を指名したい場合は、「相談員」を指名し、連絡先（電話番号かメールアドレス）を告げて下さい。メールの場合は、その旨記載して送信して下さい。のちほど、各「相談員」から連絡します。
○ ご不明な点は、高橋までご連絡下さい。

2　問い合わせ　「相談員」

役職・氏名	担当内容
家族会副会長（陸自OB） 宮下　寿広	◇家族（隊員）に関する問い合わせ （主に陸上自衛隊）
家族会理事（陸自OB） 宗像　久男（むなかた　ひさお）	◇家族会全般に関する問い合わせ
家族会理事（海自OB） 細治　雅和（かじ　まさかず）	◇家族（隊員）に関する問い合わせ （主に海上自衛隊）
家族会運営委員（空自OB） 古賀　久夫（こが　ひさお）	◇家族（隊員）に関する問い合わせ （主に航空自衛隊）
家族会事務局員　高橋　隆志	◇家族会の管理に関する問い合わせ

相談無料！　個人情報・秘密厳守！　問題解決実績多数！

秘密厳守　隊員及び家族の皆様の
遺言アドバイザー

柴田純一
行政書士

（遺言・相続 専門）
遺言書がなく揉める相続。揉めたら全員が敗者です。あなたの遺言書があなたの家族を守ります。「遺言書」づくりをサポート致します。

遺言書は、家族の絆の証明書!!

行政書士　柴田法務会計事務所
〒173-0035 東京都板橋区大谷口2-24-13 受付時間／10:00～18:00
TEL 03-6780-1408 FAX 03-6780-1409
E-mail／info@yuigonsyo.biz　https://yuigonsyo.biz

解答
数字　頭の体操⑰

答　0

解説
連続する3つの整数には少なくとも1つは2の倍数（偶数）が入ります。
また、3つの整数は連続なので、どこかに3の倍数が入ります。
よって、掛け合わせた整数は6の倍数となり、余りは　0　となります。

（問題は、4面に）